

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (教育学)	氏名	AERSILENG
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目 内モンゴル自治区におけるモンゴル伝統音楽伝承の課題と意義			
論文審査担当者			
主 査	教 授 枝川 一也		
審査委員	教 授 小川 佳万		
審査委員	教 授 高旗 健次		
審査委員	准教授 伊藤 真		
審査委員	准教授 大野内 愛		
審査委員	教 授 三村 真弓 (エリザベト音楽大学)		
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、多民族・多文化融合の中国内モンゴル自治区におけるモンゴル伝統音楽伝承の現状と課題を明らかにし、モンゴル伝統音楽の伝承が内モンゴル自治区のモンゴル人たちの「モンゴル民族」としての民族アイデンティティ形成に与える影響について考察したものである。本論文では、内モンゴル自治区のモンゴル民族小学校、内モンゴル師範大学、内モンゴル芸術大学、内モンゴル民族音楽団を対象とした、資料調査やインタビュー、アンケート調査などによって結論を導き出している。</p> <p>論文の構成は、序章と終章を含めて全6章である。序章では、本研究の背景、先行研究の検討、本研究の目的と方法について述べている。</p> <p>第1章では、内モンゴル自治区のモンゴル民族小学校の音楽科教科書で取り扱っている伝統音楽のほとんどが、モンゴル民族の伝統音楽であることが明らかにされている。また、内モンゴル自治区の4つの行政単位におけるモンゴル文化と伝統音楽の位置づけや学校の現状などの違いによって、モンゴル伝統音楽が子どもたちにとって身近に存在しているか否かが異なり、音楽科授業におけるモンゴル伝統音楽に対する子どもの関心・理解が異なることが明らかにされている。さらに、モンゴル伝統音楽の課外活動や鑑賞の授業が行われている小学校では、モンゴル伝統音楽の学習を通して、子どもたちの民族文化への関心・理解が深まっていることを示した。</p> <p>第2章では、内モンゴル師範大学の音楽学学科「漢語受講コース」と「モンゴル語受講コース」のカリキュラムに基づいて、内モンゴル師範大学の音楽科教員養成におけるモンゴル伝統音楽の位置づけについて検討した。内モンゴル師範大学の音楽科教員養成では、1つの専攻を熟練した上で、音楽科教員になるための多様な素質、知識と能力を身につけた学生の育成を図るカリキュラムが構成されており、中でも「モンゴル語受講コース」においてモンゴル伝統音楽が数多く取り扱われていることが示されている。</p> <p>第3章では、内モンゴル芸術大学において、民族声楽分野、民族器楽分野と「モンゴル民謡伝承クラス」に多くのモンゴル伝統音楽が「専攻」として設けられており、その中で、</p>			

モンゴル民謡伝承クラスの必修科目として設置されている「モンゴル民族音楽史」、「モンゴル民族伝統音楽概論」が特徴的であって、モンゴル学生たちの自民族文化、歴史の理解及びモンゴル伝統音楽の学習にとって、重要な科目であることを述べている。また、インタビュー調査やアンケート調査から、モンゴル伝統音楽の学習を通して、学生たちの民族伝統音楽、あるいは民族文化への関心・理解に変化が生じ、民族意識が高まっていることが明らかにされている。

第4章では、内モンゴル民族音楽団が様々な国や地域でモンゴル伝統音楽を取り扱った音楽活動を行っており、その音楽の歌詞の内容や文芸技法、音楽表現などのほとんどがモンゴルの民族文化、生活、歴史などに関連していることが明らかにされている。また、団員たちが各自の得意な分野で、指導者、教育者などとしてモンゴル伝統音楽の伝承にかかわっていることも明らかにされている。さらに、団員に実施したアンケート調査から、団員たちの、モンゴル伝統音楽、民族文化と民族意識の関連性に関する認識が高く、また、モンゴル伝統音楽や民族文化の伝承者としての認識と責任感が強いことを示している。

終章では、各章の概要を踏まえた上で、本論文の成果と今後の課題について述べている。本論文は、次の4点から高く評価できる。

第1に、内モンゴル自治区におけるモンゴル伝統音楽伝承の現状と課題を明らかにしたことである。教育機関における教育では、カリキュラムや指導方法からみて、民族アイデンティティの形成につながる現状がみえた。また、教員の育成や履修の仕方から、民族アイデンティティの形成の可能性を高めるにあたっての課題も明らかとなった。

第2に、モンゴル伝統音楽の伝承から民族アイデンティティ形成を考察したことである。本論文によって、モンゴル伝統音楽を学習する学生やプロの音楽集団に所属する人々が、モンゴル伝統音楽にかかわることで、「モンゴル民族」としての民族アイデンティティを形成する可能性が十分に認められる。

第3に、モンゴル民族の学校教育における音楽教育の重要性を提示したことである。中国では少数民族の学校教育で教える教科内容のほとんどが、漢語教科書の内容を少数民族の言語で訳したものである。それに対して本論文では、モンゴル民族小学校で使用されている音楽科教科書に多くのモンゴル伝統音楽が取り扱われており、その音楽の歌詞や学習内容などに、モンゴル民族の歴史、生活及び精神文明など、モンゴル民族文化そのものが反映されていることを示した。それを、例えば鑑賞の授業などを通して、子どもに指導をすることで、民族アイデンティティ形成につながることを期待できる。

第4に、小学校、音楽科教員養成、音楽の専門家養成、プロの音楽集団といった幅広い分野において、モンゴル伝統音楽伝承について検討したことである。それによって、モンゴル伝統音楽を取り扱っているこれらの機関がお互いに関連性を持っているということが明らかとなり、それは今後の内モンゴル自治区の教育におけるモンゴル伝統音楽の伝承にとって意義のあるものといえる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和2年9月2日